

優秀若手構造研究者表彰（コンクリート系）の選考結果（令和6年度）

1. 応募状況

標記について博士前期課程対象は令和6年6月14日から12月20日の募集期間に1名の応募があった。

学部課程対象は令和6年6月14日から令和7年1月31日の募集期間に1名の応募があった。

2. 選考経過及び選考結果

受賞者の選考は、一般社団法人建築研究振興協会に設置された優秀若手構造研究者表彰選考委員会（コンクリート系）、（以下、「選考委員会」と略記）において次のように行った。

令和7年1月9日に博士前期課程対象、1月31日に学部課程対象の選考委員会を開催し、公平、公正な審査を行った。

選考委員から事前に行った評価の視点、考え方等について意見交換を重ね、委員全員の合計点を勘案して、総合的に判断し博士前期課程対象1名、学部課程対象1名を選考した。

受賞者は優れた業績をあげており、研究者としての将来性も豊かであると考えられ、表彰に値すると判断した。

博士前期課程対象

氏名	大学院名・専攻名	修了年又は 在学年	業績
リチャード イップ ジェ トゥ RICHARD YIP JE TOO	京都大学大学院 森林科学専攻	2023年 修了	CLT 耐力壁を挿入した鉄筋コンクリート造柱梁架構の構造性能に関する研究

学部課程対象

氏名	大学名・学部学科名	卒業年 (見込み年)	業績
おおわだ なおと 大和田 直人	東京大学 工学部建築学科	2025年3月 卒業予定	能登半島地震で被災した鉄筋コンクリート造補強建物の被害分析

3. 選評

受賞者：RICHARD YIP JE TOO

業績名：CLT 耐力壁を挿入した鉄筋コンクリート造柱梁架構の構造性能に関する研究

対象業績は構造実験と解析を通じて、RC造柱梁架構にCLT耐力壁を挿入した鉛直構面（以下、RC-CLT耐震壁という）の耐震性能の解明を目指す時機を得た研究である。具体的にはCLT耐力壁の接合方法をパラメータとして2層1スパンの試験体を2体、比較のためのRCフレーム試験体を1体作成してその静的加力実験を実施し、破壊性状を確認している。また、マクロモデルを新たに構築し、RC-CLT耐震壁のせん断抵抗機構の検討を実験での計測値と丹念に比較して実施している。さらに、フレームモデルと要素分割モデルを複合した全体解析モデルを構築し、試験体との比較を試み、非常に精度の良い解析結果を得ている。CLT構造とRC構造のハイブリッド構造の実現につ

ながる研究であり、今後の展開・発展が期待できる極めて有用な成果と認められる。

受賞者：大和田 直人

業績名：能登半島地震で被災した鉄筋コンクリート造補強建物の被害分析

対象論文は、2024年能登半島地震で大破した、耐震補強されたRC造建物の地震被害について分析を行い、既存の耐震診断法・耐震補強設計法の課題および改善点を指摘したものである。大和田直人君は、被災建物の部材損傷度と耐震診断・補強設計におけるF値に着目した損傷度評価の比較を行うとともに、部材ごとの最大耐力到達時変形の差を考慮した荷重増分解析を行った。これらより、診断・補強におけるF値に着目した評価は実被害と対応が悪く、荷重増分解析による被害推定も実被害を完全には再現できなかったことを示し、部材の混用を避ける補強設計を提言している。その勤勉な研究姿勢からも研究者・技術者としての将来が大いに嘱望される。

4. 令和6年度優秀若手構造研究者表彰選考委員会（コンクリート系）委員

勅使川原正臣	中部大学 教授・名古屋大学 名誉教授
福山 洋	国立研究開発法人建築研究所 理事
五十田 博	京都大学 教授*1
勝俣 英雄	大林組技術研究所 所長
衣笠 秀行	東京理科大学 教授
楠 浩一	東京大学 教授
坂田 弘安	東京工業大学 教授
塩原 等	東京大学 教授
田尻清太郎	東京大学 准教授*2
向井 智久	国土交通省国土技術政策総合研究所 建築研究部室長

（*1は博士前期課程応募者の指導教員・共同研究者、*2は学部課程応募者の指導教員・共同研究者にあたるため選考から外れた）